【別添２】（様式例１）

平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(教務)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1)地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2)進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3)部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4)端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○幅広い進路実現に向けた教育課程 ▲よりよい学習指導の研究
3 分掌の抱える課題	授業改善による個に応じた指導と評価の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1)教科の特徴を生かし、「学習意欲を喚起する授業」を推進する。 (2)学科の特性に応じた、「生徒の将来につながる授業」を推進する。 (3)授業規律・学習環境を大切にし、「見通しをもった授業」を推進する。

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
	①「基礎・基本を定着させる授業、課題発見、課題解決を図る授業」を本年度の学習指導の全校統一テーマとし、生徒の学習意欲向上に努めます。 ②①の推進のために、生徒一人一人に応じた学習活動を実践するとともに、教員間の研修を推進しながら、授業改善に取り組みます。 ③「目標を明確にした授業」、「学習方法を教える授業」、「言語活動の活発な授業」を継続実践し、学習への取り組みを高める支援を推進します。	❶定期考査ごとの成績不振生徒の数を昨年度以上に減少させる。	・普段の授業より、左の①にある統一研究テーマを意識した授業の展開により、特に若手教員を中心に、授業力が向上してきたと考えられる。また、それに伴って生徒たちの授業に取り組む姿勢も良くなってきている。	A	○前期終了後の評価1の生徒は4名（昨年度22名）であった。劇的に改善された。 ▲現在より良い授業を行う問い意識や、お互いの授業を参観しあい、授業改善を心掛ける姿勢の継続が課題である。	A B C D
		❷年間２回（５月と１１月）公開授業週間で、教員全員が①に関係する公開授業を実施・参観し、教科内での検討を行う。また、その情報を教科横断的に共有する。	・各教科で今年度の共通テーマに従って研究授業等を行った。その後、教科ごとに研究会を行い、その内容を教務通信によって全職員で共有した。	B	○今年度は保護者の参加が10名程度、また中学生の保護者が30名程来校していただけた。年々保護者の参観が増えている。 ▲地域に開かれた学校として、多くの方に来校していただくために、広報の仕方も一考したい。	
		❸生徒の学習実態調査の結果や「生徒及び保護者に対するアンケート」の結果が向上する。	・学習指導に関する項目について肯定的評価が「個々に応じた学習指導」生徒79.3%、保護者78.0%、「習熟度別授業・少人数指導」生徒83.5%、保護者85.7%、どの項目も概ね高い評価であった。	B	○個に応じた学習指導、習熟度別授業は浸透している。 ▲授業のユニバーサルデザイン化も推し進める必要がある。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３０年１月１８日

・学校評議員のご意見

年々良くなってきている。良い校風が出来上がりつつある。まずは、現状を維持して更なる改善をしてほしい。苦手を克服し、意欲的に頑張れたり、逆に得意を活かして進路につなげられるような授業を展開してはどうか。

12　来年度に向けての改善方策案

・成績不振者０を目指し、新テストを意識した、生徒が主体的に取り組む授業を展開する。
・授業改善を目的とする、相互の授業参観を頻繁に行いながら授業のユニバーサルデザイン化を目指し、基本的な授業のフォーマットや教科ごとに核となる授業展開を考える。

【別添２】（様式例１）

平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（生徒指導）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	**【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。** **【めざす学校像】　(1)地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校** **(2)進路実現に向けて、よく勉強する学校** **(3)部活動や学校行事に真剣に取り組む学校** **(4)端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校**
2 分掌における現状の分析	○身だしなみ指導や分掌、学年等の連携を通じて、情報の共有化ができ、スムーズな運営ができている。 ▲いじめやSNSに対する未然防止のための活動が消極的である。
3 分掌の抱える課題	未然防止に対する教育活動や研修等を充実させ、教育相談的な知識を備える必要がある。また、保護者対応の方法を身に着ける必要がある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 学校規律、授業規律の確立 (2) 自他の人権や生命を尊重する意識の確立 (3) 問題行動の未然防止と事後指導の徹底

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
生徒指導	①毎日の登下校指導、身だしなみ指導、時間厳守、忘れ物、授業態度など、職員の共通理解・共通行動のもと、生徒に指導します。 ② いじめ調査や生徒観察により、年間を通していじめの未然防止に努めます。また、情報モラル教育を充実させ、情報モラル（SNS）意識を高めます。 ③ 見逃さない、見過ごさない、見放さない、見捨てないという姿勢で、未然防止に努め、情報を共有し、早期発見・早期対応（解決）に努め、事後指導まで粘り強く指導します。	❶落ち着いた教育環境が保ち、清潔感ある服装が、保たれていること。地域から信頼が高まり、入学希望生徒が増加する。	全体的には落ち着いている。端正な身だしなみを保ち、地域からは良い評価をいただいている。	B	○身だしなみ検査に関係なく、昨年度より極端な乱れはなかった。 ▲新制服において、細かな着崩しが目につくようになってきた。教職員共通理解のもと指導する体制が必要である。	A
		❷いじめ問題や情報モラル問題が発生しない。特にSNS等を使った画像（製造・所持・ばらまき）や誹謗中傷がない。	情報モラル問題については、未然防止のため、講話等を行い、トラブルは減少しているが、一部、誹謗中傷等により問題となることがある。	B	○情報モラルについては、外部講師による講話や日頃の指導の効果があがっている。 ▲いじめ問題については、日頃からアンテナを高くし、早期発見、早期対応に努めたい。	(B) C
		❸問題行動の件数が減少する。同じ生徒が繰り返し問題行動を起こさない。	毎日の指導が充実し、職員の意識が変化したこともあり、生徒への声掛けや情報を共有化することで、問題行動が減少している。ただ、教育相談が必要な生徒が増えている。	B	○家庭反省をするような問題行動は、かなり減少した。 ▲たまたま今年度の問題行動が減少した可能性もある。粘り強く事後指導をしていく必要がある。	D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３０年１月１８日

・学校評議員のご意見 SNSで他世代からのアプローチが多いので、今後も気を付けてほしい。 情報モラル講話は良いと思うし、繰り返し指導してほしい。 どうしてマナーが必要なのか指導すると良い。	12 来年度に向けての改善方策案 ・情報モラル講話や職員研修等を通して、継続かつこまめな指導をするよう心掛ける。 ・外部講師からの指導や、日常的な指導を意識付けたい。 ・何事も職員の共通理解が図られるよう働きかけていきたい。

【別添２】（様式例１）

平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書(進路)

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校

学校番号	５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1)地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2)進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3)部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4)端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○地元企業ガイダンスなど地域と連携した取組による地元就職者数の確保（50%）と就職率100%の達成、 分野別ガイダンスなどの進路行事による生徒の進学意識の向上 ▲３年間を見通したキャリア教育
3 分掌の抱える課題	学科別・コース別に多様化する進路指導におけるキャリア教育の充実
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 情報提供･ガイダンス機能の充実 (2) ３年間を見通したキャリア教育の推進 (3) 地域を活性化する人材育成

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
進路指導	①キャリアガイダンスや上級学校による学部･学科説明会、地元企業を中心とする職場体験学習を実施します。 ②外部模試の結果を踏まえて、放課後の就職･公務員補習や進学補習、土曜講座、休暇中の特別補習、学習合宿を実施し、弱点強化を図ります。 ③保護者対象進路説明会や地元企業ガイダンス、地元企業見学、保護者による面接練習を実施します。	❶アンケートを用いての学校評議委員、保護者、生徒による進路関係の項目の評価が向上する。	①種々のガイダンスを計画通りに行い、生徒からの評価も高かった。地元建設業界による出前講座も実施でき、地元志向も高まった。	A	○進路について真剣に考える姿勢が身についた。 ▲日々の学習にどうつなげるかが課題である。	A (B) C D
		❷外部模試における客観的評価が向上する。具体的数値目標が達成される。	②補習や模試等により学習習慣が定着し、学力向上や弱点強化を図ることができた。	B	○公務員に多数合格した。また、推薦入試の合格率が高くなった。 ▲欠席の多い生徒への就職指導が課題である。	
		❸行事に招く外部講師や保護者による評価が向上する。	③地元企業の協力や就職補習により、地元就職50%と就職内定率100%を達成できた。	B	○地元企業との信頼関係が生まれてきている。 ▲地元から出たい生徒に、地元に向かせる指導が課題である。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成３０年１月１８日

・学校評議員のご意見

地元企業は人手不足であるため、地元企業と情報を共有して、地域活性化のためにも地元就職を増やしてほしい。

12　来年度に向けての改善方策案

・今年度から下呂市主催の地元企業ガイダンスへの就職希望者全員参加や、地元下呂建設業協会出前講座などを実施しており、地元の良さを再認識することで地元就職への意識を高めている。今後はこれらの企画に加え、地元で働く卒業生などの話を聞く機会を設けて、卒業後に地元に貢献できる人材を増やしていきたい。

【別添２】（様式例１）

平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（特別活動）

Ⅰ 自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1　学　校　教　育　目　標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1)地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校」 (2)進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3)部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4)端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2　分掌における現状の分析	○活発な生徒会活動がなされ、学校発展のために貢献しよく努力している。また、地域と協同し、ボランティア活動などを、定期的に行っている。
3　分掌の抱える課題	活動する生徒が半年毎に変わることもあり、継続した活動になりにくい。 他の分掌との連携関わりを大切にしつつも、業務分担の主となるところを明確にしていく必要がある。 生徒の減少による予算の縮小化を改善する必要がある。
4　今年度の具体的な重点目標	(1)　生徒会活動の活性化 (2)　ボランティア活動を通して地域に貢献 (3)　部活動、学校行事に真剣に積極的に取り組む学校全体の取組

年度目標			年度末（途中）評価			
5　評価項目 領域・分野	6　重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7　達成度の判断・判定基準あるいは評価指標	8　取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	9　評価 A･B･C･D	10　成果と課題	11 総合評価
特別活動	①　三大学校行事（球技大会、文化祭、三送会）への取組を通して、生徒が自発的、自治的に考えて行動できるように支援します。また、地域との連携を意識して活動します。 ②部活動への自主的な取組を通して、生徒が自ら成長できる機会と実感が得られるよう支援します。地域との関わりを意識して活動します。 ③生徒会執行部を中心としたMSリーダーズ活動、ボランティア活動への自発的な参加を促し、地域社会の一員としての自覚を深め、地域社会と積極的に関わろうとする姿勢、地域に貢献する心を育てます。	❶　行事の取組が生徒主体であり、自ら考える姿勢、絶えず変革しようとする姿勢が見られる。	・生徒会が活動の牽引役となり、より活動的にするための努力をしてきた。また、学校全体を見渡し、自校愛の持てるよう、常に計画と反省点を踏まえて活動している。	B	○生徒主体で、行事の計画・運営ができ、充実した活動であった。 ▲意思疎通を図り、意見を検討し反映させることが大切である。	A B C D
		❸　部活動への取組が生徒主体であり、部活動を通して成長しようとする姿勢が見られる。女子バレー、陸上、弓道、美術など大きな成果を上げている。	・生徒が主体的となり、部活動を活性化するために、積極的に参加し、活動を行っている。また、部活動を通じて心身を鍛錬し、人間的にも大きく成長している。	A	○部活動の活性化が、学校活性化につながり、人間的な成長している。 ▲部活動と勉学の両立が困難な生徒もいる。	
		❷　地域社会の一員としての自覚が生徒に見られ、地域社会と積極的に関わり貢献する意識を持ち、実際の行動に移せている。	・地域社会の一員という自覚を持ち、地域で貢献できる活動を行っている。特に生徒会環境厚生課を中心に、施設訪問、暑中見舞、年賀状、募金活動などの福祉活動と連携した活動をしている。	A	○地域の方と共に協力しながらできる活動を行っている。 ▲毎年、継続はしているが、新たな取組や、反省・再考が必要である。	

Ⅱ 学校関係者評価　　実施年月日：平成３０年１月１８日

・学校評議員のご意見
　部活動においては大きな成果をあげた。先生方のご苦労は大変だと思うが今後も維持向上目指していただきたい。
　中学で培われた合唱の力を継続し益田清風高校の特色を出してみてはどうか。

12　来年度に向けての改善方策案

・地域貢献のための活動は、学校の年間計画を基に考査期間などを考慮して計画する。
・行事の計画にあたっては、全校体制が作れるように働きかける。
・入学当初の１年生に対して、校歌を大きな声で自信を持って歌えるように、朝のSHRの時間を使い、各クラスごとに、毎朝、校歌練習を行った。来年度も継続したい。

【別添２】（様式例１）

平成２９年度　自己評価・学校関係者評価　報告書（保健安全）

Ⅰ　自己評価

岐阜県立益田清風高等学校　学校番号　５６

1 学校教育目標	【教育目標】　理想を掲げ、主体的に考え行動できる、心豊かでたくましい精神を持った人間の育成を図る。 【めざす学校像】　(1)地域に学び、地域と育ち、地域に貢献する学校 (2)進路実現に向けて、よく勉強する学校 (3)部活動や学校行事に真剣に取り組む学校 (4)端正な身なりで、明るい挨拶のできる学校
2 分掌における現状の分析	○防災教育を行ったうえでの避難訓練の実施による危機意識の高揚と非常時対応への取組が向上した。
3 分掌の抱える課題	学校生活の全般において、命・健康と安全に対しての根本的な意識づけをより意図的におこなう活動。
4 今年度の具体的な重点目標	(1) 心身の健康についての知識と実践する力の養成 (2)「生命を守る」訓練、「助け合う」行動に繋がる教育の推進 (3) 安全面等での地域と連携

年度目標			年度末（途中）評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に 必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容評価項目の 達成状況等	9 評価 A･B･C･D	10 成果と課題	11 総合 評価
保健安全	① 自らの身体と精神の健康を考え、生活を見直す保健安全教育、感染症予防のための保健指導に取り組みます。 ② 多様な災害に対し、自らの生命を守り、適切な判断･行動のできる生徒の教育に取り組みます。 ③ 環境美化に関わり貢献できる生徒の行動習慣を身につけ、地域の避難拠点としての学校づくりに取り組みます。	❶心身の健康に関わる諸調査を実施して判断する。	① 保健室に来室する生徒の訴えを分析し、その対応について連携を図った。	B	○教育相談との連携、専門医との連携・協力ができた。	A Ⓑ C D
		❷学校の体制づくり、訓練または教科における指導などを総括的に評価する。	②避難訓練の実施、防災週間におけるシェイクアウト訓練、教科における防災マップの学習、２年生における防災教育の推進をおこなった。	B	○防災に対する日常的な意識は高まってきている ▲２年生の防災リーダーの学習機会の確保と地域の防災を担う意識を高める取組が必要である。	
		❸環境美化に対して生徒会活動による見直しを行い、外部の要望に対応、評価を参考に判断する。	③生徒会を中心に校内、部活動の協力により、地域の環境美化活動をおこなった。 行政主導であるが、避難拠点としての校内整備を進めつつある。	B	○生徒の地域の環境美化や挨拶をになう学校である意識ある行動は日常化してきている。 ○地域行政との有事の際の体制整備・役割分担を具体化しつつある。	

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：平成３０年１月１８日

・学校評議員のご意見
　生徒の健康・安全を確保しつつ、地域の安全・環境整備を担う若者の育成に期待する。また、災害時を含めて非常時に対応できる生徒の教育を実践してほしい。

12　来年度に向けての改善方策案

・地域における生徒の関わる部分を増やす方策・改善策を模索する。